日本青年団新聞

Youth Post

多様な性のあり方を紹介する区報（左）と冊子（右）
（6p リーダーと語る）

＃出会い＃であい＃に
＃満ちた＃青年団

Action

シャカツ 21 で学ぶ社会活動（東日本地域）

地区のため伝統をつなぐ（長野県・立沢青年団）

日本一のドンキで献血（愛知県・豊橋市青年団協議会）

Focus

青年団と SDGs ～１日サンタになって貧困をなくそう～
（栃木県連合青年団）

～ごみを出さないシンプルな暮らしへ～
（徳島県・上勝町青年団）

リーダーと語る

少数者と共に生きるまちをめざして
（平田 根久 氏・東京都世田谷区）

青年団ってどんなところ？

青年団と出会い、人と出会う
（西村 康恵 氏・滋賀県青年団体連合会副会長・事務局長）

Opinion

私が変わる。地域も変わる。

イケ団

されど、２年（平林 毅一郎 氏・北海道南空知青年団体協議会）

はらぺこ青年団

日本三大秘境・椎葉村での「釣り大会」
（山中 惇司 支局員・宮崎県青年団協議会）

交流事業「どろんこバレー」での西村夫妻
（7p 青年団ってどんなところ？）

夏まつりで資源回収（4-5p Focus 上勝町青年会）

編集・発行

日本青年団協議会

〒160-0013
東京都新宿区霞ヶ丘町4-1 日本青年館5階
TEL 03-6452-9025 FAX 03-6452-9026
MAIL dan_news@dan.or.jp
WEB https://www.dan.or.jp

2022 vol. 2

107巻第2号 発行2022年5月1日

「Youth Post・ユースポスト」とは、青年の活動や想いが全国に届くことを願って、Youth・ユース（青年）と Post・ポスト（郵便物）を組み合わせたものです。
本紙は、青年や青年団が全国でいきいきと活躍する姿を伝える日本青年団協議会の機関紙・広報紙です。

シャカツ21（トウエンティーワン）で学ぶ社会活動

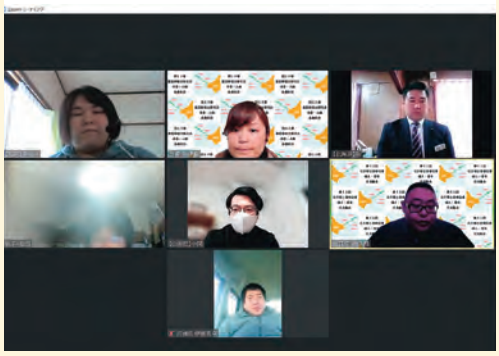
～遠く離れていてもオンラインで結ぶ～（東日本地域）

シャカツ21とは、2021年度に日青協の運動方針で掲げた、加盟団が主体となりオンラインで社会課題について学んでいく企画だ。今回は、2022年2月6日に開催された東日本地域のシャカツ21について参加したメンバーと振り返る。

◆開催までの道のり

2021年5月の第71回日青協定期大会終了後に開いた地域別懇談会で、東日本地区でシャカツ21を開催してみようという声が上がった。開催の意向は確認できたものの、社会課題は平和や領土問題、所得格差、異常気象など多岐にわたり、なかなか決めきれなかった。しかし、SDGsであれば、ほとんどの社会課題を網羅できると考え、始まった。

北東ブロック※で例年行っている役員研修を第52回北方領土復帰促進婦人・青年交流集会の日程に合わせて開催することで、参加者の確保に成功。北海道、岩手県、宮城県、山形県、福島県、群馬県の1道5県から青年団員14名が参加した。



北方集会の名残もありながら事業開始

◆SDGsを学ぶ

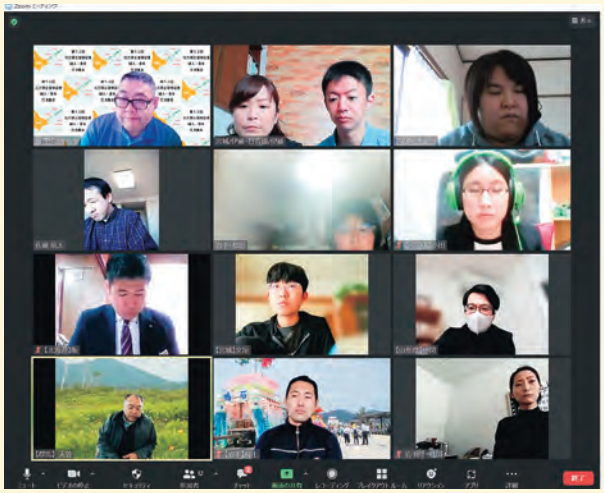
当日は、SDGsの説明動画の視聴から始まった。国連※WFPが中学生向けに作成した動画だったが、その分丁寧につくられており、大人が見ても満足と感じるような内容だった。その後、グループに分かれ、自身で気になった目標や青年団の活動でSDGsと関連していると感じたことなどを話し合った。「17の目標を一つひとつ確認したのは初めてだった」「青年団活動にここまで密接に関連していることに驚いた」などの声が参加者から寄せられた。参加した青年団員一人ひとりが2030年までのゴールに向け、自分事として身近に考えられるプログラムとなった。

◆社会課題を考える

伊藤加奈子日青協常任理事は「青年を取り巻く社会課題は山積みだからこそ、問題について学び立ち向かう必要がある」と振り返る。学ぶために集おうとすると及び腰になってしまうかもしれない。しかし何かの機会で集まったとき、社会問題について短時間でも学べる場をつくることが、現代の地域青年に合わせたアプローチ方法だと気付かされた。手段を変えても学びつづける。そう、未来をつくるのは私たち地域青年なのだから。

※国連WTP……国連世界食糧計画の略称で、世界最大の人道支援組織として2020年にノーベル平和賞を受賞
※北東ブロック……日青協の地域の分け方のひとつ。北海道と東北6県青年団が対象となる

お問合せ：日本青年団協議会まで　TEL:03-6452-9025



１０か月ぶりに会う東日本地域のメンバー
（写真は一部の参加者）

中学生向けの動画を視聴し、青年団員が学ぶ
（動画は Youtube で「SDGs って何だろう？」と検索）

►ユースポスト 107 巻 1 号に、下記の誤りがございました。謹んでお詫び申し上げ、ここに訂正いたします。
5 頁　Focus
誤）中西祐介代議士
正）中西祐介議員

地区のため伝統をつなぐ

～自分たちに今できることを～

（長野県諏訪郡富士見町立沢（たつざわ）地区）

富士見町立沢地区の**立沢青年団**（以下青年団）は、1889年に設立した。現在団員の総数は8名で、学生や会社員で構成されている。主な活動内容は、毎年開催する地区のおまつりや演藝会（えんげいかい）等の運営で、最近ではSNSの活用にも力を入れている。

2019年の演藝会の様子

約300世帯が暮らす立沢地区では毎年8月に奉納相撲（※ほうのうずもう）を行っており、園児から大人まで100人近くが参加する地区の人気イベントとなっている。ところが、2年前からはコロナ禍で開催自粛を迫られ、青年団は頭を悩ませてきた。そんな最中、OBから「奉納相撲をやらなかった年に地区内で酷い災害が起きた」との伝承を聞く。どうにかして開催しなければと団員たちは案を持ち寄り、コロナ禍でもできる紙相撲やモザイクアートを奉納してきた。

演藝会では青年団に伝わる様々な芸能を50年以上にわたり披露し続けている。こちらもコロナの影響で開催できていないが、代わりにYouTube上で過去の演藝会の模様を毎日投稿している。

団長の矢沢諒平さん（26）は「小さい頃から青年団が色んなことをやっているのを見てきた。今度は自分が地区のために、団の一員として頑張りたい」と意気込みを語る。

※奉納相撲……祭典の時などに、神仏に奉納するためおこなう相撲

お問合せ：Instagram、Facebook 等各 SNS で「立沢青年団」と検索

日本一のドンキで献血

～前例がないことに挑む～

（愛知県豊橋市）

成人の日、国内最大の面積を誇るMEGAドン・キホーテ豊橋店を舞台に、**豊橋市青年団協議会**が献血を呼びかけた。多くの企業が休業する年始は献血量が減るため、毎年献血の呼びかけを行っている。しかしドン・キホーテでの開催は今回が初めてだった。

晴れ晴れとした表情を浮かべる団員たち

例年会場として使っていた別の商業施設が、新型コロナの影響により外部団体の利用を停止。一時は窮地に陥るも、以前ドン・キホーテで別のイベントが行われていたのを知る団員がおり、運営会社に入口前エリアの利用を直談判した。初の試みとあって断られることも覚悟していたがご快諾いただき、事業は無事実現にこぎつけた。事業の告知はロコミのほかSNSやジモティーを活用し、当日は57人から献血の協力を得ることができた。

この時期は、付近で成人式が開催される時期でもある。献血会場のドン・キホーテには振り袖やスーツに身を包む新成人の姿がちらほら。会長の夏目志朗さん（40）はこう語る。「今回、ふらっと献血してくれる高校生がいた。次回に向け、若者の献血への関心を高める活動を続けつつ、新成人を巻き込む仕組みをつくっていきたい」

前例に囚われず事業を継続・発展させる姿に、これからの青年団像を見た。

お問合せ：愛知県青年団協議会　TEL：052-221-6003

16 平和と公正をすべての人に

青年団とSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

昨今、持続可能な社会めざすための17項目のターゲット（ＳＤＧｓ）を実践することが社会的に注視されています。しかし、ＳＤＧｓとして注視される以前から、青年団はＳＤＧｓに通じる活動を続けてきました。本誌では、青年団とＳＤＧｓについて各号のテーマに沿ってご紹介します。今回のターゲットは「1 貧困をなくそう」「11 住み続けられるまちづくりを」。貧困や環境問題の解決に取り組む青年団の活動について取り上げます。

～1日サンタになって子どもの貧困をなくそう～

◆サンタdeクリーン&ウォーク（栃木県）

栃木県宇都宮市では、とちぎボランティアネットワークを中心に毎年12月に「サンタdeラン」が行われている。これは、子どもの貧困を周知する事や寄付金集めを目的として参加者がサンタの格好をしてまちの中を走るイベントだ。しかしコロナ禍でのランは密になるので難しく、宇都宮市青少年団体連絡協議会が行っている「スポーツゴミ拾い」からヒントを得る形で、12月19日に「サンタdeクリーン&ウォーク」を開催した。

開催にあたり、子どもを支援する団体やフードバンク、高校生・大学生ボランティア、そして青年団による実行委員会により企画・運営を行い、事前イベントとしてサンタdeランゲームの作成、地元ホテルやこども食堂との連携、鮭募金（移動型募金箱）、ＬＩＮＥスタンプの作成などを実施。イベント当日は、検温や消毒等の感染対策を徹底することで約２００名の参加者や１００名近いスタッフが集まった。スポーツゴミ拾いの他にも、まちの中を歩くパレードやステージイベント、参加団体による出店も行われ、大盛況のうちに終了した。

1 貧困をなくそう

現在日本に暮らす子どもの相対的貧困率は13.9%（7人に1人）と言われています。誕生日のお祝いを知らない子、お金がないから部活に入れない高校生。そうした子どもたちが未来を諦めないために私たちにできることがあります。

参加した高校生ボランティアからは「自分たちも子どもの貧困について知ることができ、理解を深めることができた」との声があった。若い世代の力が子どもの貧困撃退の一助になっている。

サンタに扮したスタッフが、
子どもの貧困課題をアピール

お問合せ：認定NPO法人
とちぎボランティアネットワーク
TEL：028-622-0021

11 住み続けられるまちづくりを

食品ロスや不法投棄による環境汚染の問題が深刻化しています。日本のゴミ総排出量は年間4,274万トン、東京ドームに例えると約115杯分にのぼります。普段の生活のちょっとした意識が地球を守る行動につながります。

～ごみを出さないシンプルな暮らしへ～

◆ゼロ・ウェイストのまち（徳島県）

徳島県の山あいにある上勝町（かみかつちょう）は、日本で初めてゼロ・ウェイストを宣言したまちとして世界から注目を集めている。ゼロ・ウェイストとは「無駄やゴミ、浪費をなくす」という意味で使われ、日々の行いを見直し、ゴミをださないことをめざす取り組みである。上勝町では1997年頃まで、地面に大きな穴を

「ウクライナを取り巻く社会情勢に対する声明」と
「武力行使による弾圧が進む社会情勢に対する態度」を発表しました。

２０２２年２月２４日にロシア政府がウクライナへの侵攻を発表・実行しました。この度、**武力による課題解決に対する懸念**から、**日本青年団協議会常任理事会**では**同年３月４日**に声明・態度を発表しています。
この状況をふまえ、日青協会長の**中園謙二よりメッセージ**がありますので、右記QRコードよりYouTubeへアクセスし、ご覧ください。

NISSEIKYO

#NoWarInUkraine

掘ってその中にゴミを入れて燃やす野焼き処分を行っていた。プラスチックや金属類などまとめて燃やすため発生する有害物質の放出の問題が年々深刻化。そこで焼却炉を設置し、ゴミの処理方法を切り替えたが、焼却炉が小型だったため全部のゴミを処理することができず、思い切ってゴミを出さない暮らしを徹底することにした。

現在上勝町では、ゴミを45種類に分別しており、ゴミの集積センターは町内でたった一つだ。上勝町で活動する上勝町青年会でもゼロ・ウェイストの考えが根付いており、活動する際には必ず分別ごとに袋を用意し、備品はリサイクルしたものを利用している。まだ使えるものは再利用し、ものを浪費しない姿勢が、ゴミを出さないまちづくりにつながっている。こうした取り組みが、私たちの暮らしをより豊かにするためのヒントになるかもしれない。

清掃登山で拾ったごみを分別する青年会

お問合せ：日本青年団協議会まで
TEL：03-6452-9025

ＳＤＧｓの欠陥を補うキーワードは地産地消と新たなライフスタイル

一般社団法人グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン／チーフ・ストラテジー・オフィサー　土井　章　氏

◆ＳＤＧｓが抱えている問題

ＳＤＧｓが始まって７年目に入りましたが、ＳＤＧｓの進捗は遅いため、このままでは２０３０年に持続可能な社会を達成できないという心配が大きくなってきました。そして遅れの原因には、ＳＤＧｓの構造自体に問題があると言われ始めました。

ＳＤＧｓは、環境と社会と経済はリンクしているので、これらをバランスよく発展させようというものです。そして経済成長は開発途上国では年７％、先進国では４％を目安としています。しかし統計的に、経済成長は環境を悪化させるという相反関係にあります。この問題の解決を、私たちは起こるかどうか分からないイノベーションに頼ってしまっていますが、それを当てにせずに、特に先進国は経済成長を求めずに社会を発展させるべき、という議論が今後盛んになるでしょう。

◆地産地消と新たなライフスタイルが問題解決の鍵

社会のありたい姿を、ひとり一人がより幸福な暮らしを安定的に享受できる社会としましょう。これの必要条件は豊かな環境です。経済成長をせずに、豊かな自然の恵みを享受しながら、幸福に暮らせる社会を実現するためのキーワードは、地産地消とライフスタイルです。

経済がグローバル化したことで、日本にいながら世界中の本格的な料理が楽しめるようになり、海外旅行も身近なものになりました。一方で、それは人と物の移動活動を大きくし、化石燃料の消費と温暖化ガス排出量を増やしました。また、新型コロナウイルスもあっという間に世界中に広がってしまいました。しかし、生活水準を維持しながらも、移動が少ない地産地消が可能な地方の役割が求められていくでしょう。その実現には、青年団のように地域に寄り添って活動する存在は必要不可欠であり、今後その需要は高まっていくことが考えられます。

プロフィール

どい・あきら。建設会社に就職後４年目、1980年に青年海外協力隊に参加し、サモアで土木施工隊員として働く。その後はマレーシアで道路工事に従事。1990年から2015年までの間、30カ国以上で廃棄物管理などの技術指導に従事。2010～2015国際航業海外事業担当執行役員、2016年～2019年日本防災プラットフォーム事務局長、2019年より現職。マンチェスター大学院修了。技術士（衛生工学部門廃棄物管理計画）

北方領土に関する学習教材は、コチラがおすすめ！

北方全国大会、今年も無観客開催

２０２２年２月７日、中園会長が実行委員長を務める「令和４年北方領土返還要求全国大会」を開催した。大会前日まで２日間開催された第52回北方領土復帰促進婦人・青年交流集会には全国から39名の青年団がオンラインで参加している。コロナ禍により２年連続の無観客開催となったものの、ＹｏｕＴｕｂｅで世界へ配信され、登壇した岸田内閣総理大臣からは、領土交渉に向けた力強い挨拶もあった。北方領土が早期返還されるよう引き続き知見を深め、声を上げていこう。

亡くなられた元島民の方々に黙とうをささげている様子

▼世田谷区生活文化政策部人権・男女共同参画課人権・男女共同参画担当係長　平田　根久　氏（写真左）

ひらた・もとひさ。1968年生まれ。長野県出身。世田谷区入職後、課税課、人事課、清掃・リサイクル部、政策企画課を経て現在に至る。現所属では、人権施策（主に性的マイノリティ支援、犯罪被害者等支援）を主に、その他平和事業を担当。

▼日本青年団協議会会長　中園　謙二

1980年生まれ。岡山県倉敷市在住。2008年に岡山県青年団協議会に入会する。日本青年団協議会役員を経て2020年より会長を務めている。

リーダーと語る

誰もが豊かに暮らせるまちをめざして

社会の最前線で活躍する方と語り、あらゆる角度から見つめ直す本企画。今回は全国の先陣を切って、性的マイノリティのための「世田谷区パートナーシップ宣誓」制度（いわゆる結婚相当）を設けた東京都世田谷区にお話を伺う。生きづらさを抱えた性的マイノリティ間のパートナーを、行政が認めることの意味とは―。

◆制度誕生の背景

（中園）どうしてこの「世田谷区パートナーシップ宣誓」制度が誕生したのですか。

（平田）２０１３年９月に、区の憲法とも言える、向こう20年を見据えた「世田谷区基本構想」が制定され、多様性の尊重をめざすことが示されました。また、同じ頃に区民を対象に調査したところ、性的マイノリティへの支援が必要という回答が７割にも上りました。当事者団体からも自分たちの存在を認めてほしいという声があり、色々と検討した結果、「区がお二人の気持ちを受け止める」というこの制度の誕生が決まりました。２０１５年10月、東京都渋谷区と同時に日本で初めて制定して以来、１９１件の宣誓を受理しています。

◆埋もれた課題に光を

（中園）制度ができたことによる効果は、いかがでしたか。

（平田）不動産契約時の同性カップルなどへの偏見や、病院でのパートナーへの病状説明など、これまで難しかったところが少しずつ改善してきています。この制度によって性的マイノリティの方々が声をあげられるようになってきたところと思います。検討開始の頃、渋谷区での取り組みを念頭に区長が「投げる石は１つより２つの方が良い」と言われました。これを受け、通常の条例ならば構想から実現まで２年以上かかるところを、行政として異例の半年というスピード感で制度をつくりあげました。今では全国にどんどん広まって、２００を超える自治体が制度を設けています。自治体が先行して、数年で全国に広まったことを見ても、大きな意味があったと思います。ですが、そもそも性的マイノリティの人たちは昔から一定数いたはずです。その人たちが当時、声をあげられる環境にあったのか、という点は考えなければなりません。

（中園）住んでいるまちから、自分たちのことを認めてもらえる安心感は大きいですよね。青年団も地域に根差した色々な課題に対し、それぞれのやり方で取り組んできました。今まで問題と思われてこなかった「埋もれた課題」に、どう目を向けていくかが大事だと改めて感じます。

◆多様性＝わがまま

（中園）多様性を認める、と言うことは簡単でも実現はなかなか難しいところがあるなと感じます。多様性の尊重を一歩間違えれば、社会がバラバラになるかもしれません。区としてそのバランスをどのように取っているのでしょうか。

（平田）確かに個人の尊重は、何でもありということにつながりかねません。区ではこの制度をつくった後の２０１８年に条例を定めて、多様性を認め合える環境づくりを進めました。しかしこの時には、性の多様性のほかに民族間の文化のすれ違いなどを想定していました。ですので、何もかも取り払おう、というものではありませんでした。

（中園）多様性を認めることが個人のわがままも認めることには直結しない、ということですね。同じ社会を生きる仲間として、自分が唯一正しいのではなく、「自分らしく生きつつ社会をつくる一員」という意識を大切にしていきたいです。

（平田）条例の中にも「自分らしく生きる社会」とあります。お互いにそうした社会の実現をめざしていきましょう。今後、区として青年団とタイアップできませんか（笑）

（中園）自分と違う立場の人のことをしっかり見つめ、地域の色々な人同士をつなげていくことが青年団にも求められています。ぜひ一緒にやりましょう。

天然ガスがひらく未来

天然ガスは、クリーン性に優れた
環境負荷の少ないエネルギーです。

天然ガスはメタンを主成分とし、不純物を含まないクリーンなエネルギーです。大気汚染や酸性雨、地球温暖化の原因ともいわれる窒素酸化物（NOx）や二酸化炭素（CO_2）の排出量も少なく、環境保全に貢献する、地球にやさしいエネルギーです。

http://www.tokyo-gas.co.jp/

エネルギー・フロンティア
TOKYO GAS

青年団って どんなところ？

vol. 4

青年団と出会い、人と出会う

滋賀県青年団体連合会（滋賀県大津市）
副会長・事務局長　西村　康恵　氏

青年団には様々な業種、年齢、背景をもった青年がいる。本企画では、多様な立場の人に活動を通じて感じた自身の思いや考えについて伺い、あらゆる角度から考える。第４回目となる今号では滋賀県青年団体連合会副会長・事務局長の西村康恵さん（旧姓・村田）に、これまでの経験や出会いを通して見た自分にとっての青年団像を伺った。

夜通し語ったスプリングフォーラム（２０１８年）

日野町の青年団、西大路ユースクラブが開催した「どろんこバレー」で他団体と交流。右から３番目が西村さん、４番目が結婚相手

◆家族の勧め

青年団に初めて加入したのは社会人2年目の2014年。職場と家との往復に退屈していたとき、母から地元・蒲生郡（がもうぐん）日野町の日野町連合青年会への加入を勧められた。同時に渡された全戸配布している青年会の機関紙「ひのせいねん」に団員募集情報があり、そこから連絡を取って団室を訪れてみたことが入団のきっかけだった。

◆出会いが生活へ

仲間づくりや交流会など、人と出会う機会が多い青年団の例にもれず、西村さんも活動を通して結婚相手と出会った。日野町の隣町、竜王町青年団の団員のお相手との距離が縮まったきっかけは、2018年5月に県青年団主催で行われた1泊2日のスプリングフォーラムであった。夜間の休憩中にたまたま一緒に話す機会があり、悩みなどを相談し合ったことで、信頼のおける仲となった。活動はどれも大変で、背負っている役職から手を抜くことは許されない。それでも仲間との活動は楽しい。そうした苦労や、やり甲斐を共有し合うことで仲間意識が育まれ、活動外でも共に過ごす時間が自然と増えた。

3年間の交際を経て、2021年11月に結婚。青年団は夜間や休日に活動することが多いため、家族生活との両立が難しいことから、結婚をしたら青年団を卒業する人が多い。しかし、互いに青年団に理解がある西村さん夫妻は、尊敬し合っているからこそ今現在も活動を続けられている。もちろん共同生活に伴った課題もあるが、常に語り合い親身になれる関係が築かれているため、今後何があっても乗り越えられる自信がある。ただ一点、以前は好きな時に団室へ赴いていたが、今は夫婦の時間も大事にすべく、しっかりとオン・オフの切り替えをし、計画性を持って行動をすることを心がけている。

◆これから先も

青年団の魅力は職業や年齢に関係なく人と出会えること。職場と家の往復では得られなかった刺激がそこにはあった。もし青年団と出会っていなければ、異なる年齢や職業の仲間たちと共に、自分たちの地域をより良くするため一つの目標に向かって切磋琢磨することは経験できなかっただろう。時には価値観の違いから周りとぶつかることもあるが、それは自分を見つめ直し、人を受け入れることを覚える機会でもあると捉える。「これからもいろいろな人との出会いがありつながりが増えていくと思うので、その出会いやつながりをこれからも大事にしていきたいです」と語る村田さんの表情は幸せに満ちている。

毎月17日発売！
月刊 社会教育
創刊 1957 年。実践家と研究者による市民のための社会教育総合誌。公共施設や教育施設における社会教育はいまどうあるべきか。毎号幅広いテーマで社会教育の在り方を見つめます。
定価：本体 741 円＋税
旬報社　〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 544 中川ビル４F
TEL03-5579-8973　FAX03-5579-8975　http://www.junposha.com/

日本青年館ホール　検索
「日本青年館ホール」で検索、もしくは右記QRコードよりお読み取りください。
〒160-0013
東京都新宿区霞ヶ丘町4番1号
TEL:03-6447-5660
ACCESS：東京メトロ銀座線
外苑前駅2b出口より徒歩5分
私たちは日本の社会教育と全国の青年団を応援しています。

OPINION

私が変わる。地域も変わる。

地域活動の魅力とは何だろう。「仲間が増える」「生きている実感が持てる」「家族や会社と違う居場所がある」等様々だ。一方「参加者が集まらない」「お金がない」「周囲からの圧が強い」等の声もある。こうした相反することを含めて「楽しさ」が大きければ地域活動は続けられ、小さいと続かない。ではその「楽しさ」は誰が与えてくれるのだろう。答えは自分自身ではないだろうか。自分が楽しめなければ何をやっても退屈で、時間だけが浪費されると感じてしまう。その流れを加速したのが新型コロナウイルス感染症の拡大だ。感染拡大防止を理由に「私」たちのコミュニケーションは分断された。人とのかかわり方に優先順位をつけ、つながり続ける青年と、つながりを断たれた青年たちが無数に存在する。さらに一部の過激な報道や心無いＳＮＳの発信は、コロナ禍でも地域活動を試みる青年の勇気を挫いている。つながりのつなぎなおしが目下の取り組みだ。

Ａｆｔｅｒコロナの未来はまだ見えない。だがＷｉｔｈコロナの時代はすでに始まり、マスクのある日常とネット上に集い語り合う生活は当たり前になった。環境が絶えず変化する中で、これまで成立してきた活動を続けること、新しい活動を始めることに意義がある。これまでの活動だけでなく新しい活動を始めても良い。「私」のワクワクが何よりもかけがえのない原動力だ。「私」が楽しめば、それは仲間や地域に必ず伝わる。

まだ見ぬ仲間に「私」という風を届けよう。

IKEDAN イケ団 イケてる青年団員 No.49

されど、２年

平林毅一郎（きいちろう）さん（31）（南空知青年団体協議会）

神奈川県出身の平林さんは自然保護団体で働いている。道央の丹頂鶴の生息環境を確保するため２０１９年に長沼町に派遣された。長沼町は舞鶴地区という名を残しながら、鶴が姿を消したまちだ。

長沼町青年団と出会ったのはそれからおよそ１年後。青年団が主催する料理教室に参加して「地域を知れる機会になるし楽しそう」と感じて入団し、今では南空知地区の会長を務めている。入団したことで、住んでいるだけでは分からない町の魅力や、多くの仲間と知り合うことができた。また赴任中には、長沼町で１００年以上ぶりに丹頂鶴のヒナが誕生し、町民からも喜びの声が上がった。

５月に東京に行くことになった平林さんは「コロナが無ければ町のまつりや根室での現地集会（北方領土復帰促進婦人・青年交流集会）にも参加したかった」と残念そうに語る。しかしこれは悲しい別れではない。青年団での２年間で出会った仲間との縁はこれからも続いていくのだから。

長沼町大好き！

●小田亜季支局員（北海道青年団体協議会）より投稿

編集後記

風薫る５月、街中にちらほらと半袖姿が見られる頃でしょうか。新聞の愛称のリニューアル後３年が経ちました。満３才といえば、自分の足で立ち、立派に主張することもできますが、やはり危うくて手が離せなくなる年頃でもあります。本紙をこうして発行できているのも、読者の方のあたたかい目があってこそでした。今後とも末永く守り育てていただけることを祈っております。（か）

NISSEIKYO

最新の情報はこちら

https://www.facebook.com/nisseikyo01/

はらぺこ青年団

地元の名物を支局員が青年団のエピソードとあわせてご紹介。

日本三大秘境の一つ椎葉村（しいばそん）で、地元と青年団が共同で開催する釣り大会。前日から夜通しで準備と警備（飲み会）を、そして当日は朝４時から運営を行うためかなりハードだが参加する青年は多い。目当てはヤマメや猪肉の食べ放題だ。ともに地元の特産で、たき火で焼けばごちそうの完成。星空の下、時を忘れ、自然の恵みを堪能しながら語り合う。それはまさに、幸福の原点ではないだろうか。コロナを気にせず飲食出来る日を、椎葉村の青年団員たちは人一倍待ち望んでいる。

●山中惇司支局員（宮崎県青年団協議会）より投稿